

背景

第1章 1. 1

公共施設等の老朽化問題

- 老朽化対策のための財源確保については全国的な課題である。

公共施設等の老朽化対策の基本的な方向性

- 人口が減少することで過剰となる公共施設等を適正化することが必要。
- 適正化の取り組みとして、公共施設等を適切に減らしていく。

本市のこれまでの取り組み

- 平成17年度から全国に先駆けた取り組みを実施。
- 総量圧縮の必要性については以前から提唱している。

脱炭素化の取り組み

- 本市は、令和4年に「ゼロカーボンシティ習志野」を表明。
- 廃棄物排出の抑制を含めた脱炭素化の取り組みが必要。

課題

第1章 1. 4 (5)

- 第3期見込み額は著しく増加が予想される。

第2期の事業実績、公共建築物の老朽化状況、まちづくりの方向性が見えたことにより、対象施設が増加したことを踏まえた。

- 財源不足の深刻化が予想されるため、公共サービスを提供するための施設の姿を考え、総量圧縮を進める必要性がある。
- 環境に配慮した取り組み（脱炭素化など）の推進が必要。

課題解決の方向性

第1章 1. 4 (6)

安全な公共建築物と安定したサービスを市民に提供していくことを念頭に、以下の方向性で課題を解決していく。

①総量圧縮の検討

- 施設の今後の方向性の検討についてルール化

②更なる長寿命化の推進

- 総量圧縮の検討には時間を要するが、老朽化対策は急務。
- 環境負荷への配慮も必要であり、長寿命化改修は有効な手段。

目的、目標、基本方針の考え方 第2章 2. 5

以下の考え方を基本として、目的、目標、基本方針を定める。

- 従前の計画の基本的な考え方は継承する。
- 複合化、多機能化を推進し、公共建築物の適正な保有量の実現を目指すとともに、更なる長寿命化を推進することで財政負担の軽減と平準化を図る。
- 社会情勢の変化、市の財政状況を踏まえた継続的な対応が可能な計画とする。
- 将来のまちの姿の想定、施設の方向性が検討された際には、適宜事業計画を見直す。

目的

第2章 2. 6 (1)

- 人口減少社会の中で持続可能な都市経営を実現し、将来世代に過度な負担を先送りしないよう、時代の変化に対応した公共サービスを継続的に提供する。

目標

第2章 2.6 (2)

- 公共建築物を適正に管理する ※
- 公共建築物の床面積の削減や長寿命化改修を推進し、ライフサイクルコストの低減を図る

※ 「適正に管理する」 ことについて

「現在ある器を単純に管理する」 だけではなく、

時代の変化に対応した公共サービスを継続的に提供するための適正な器となるように管理していく

基本方針

以下の点を踏まえたものとする。

- 将来世代の負担や市の財政への影響を考慮
- 総量圧縮による公共建築物の適正化
- 安全性の確保を前提にした長寿命化の推進